



# 黒田官兵衛、宗像へ



平成26年NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」が始まり、黒田官兵衛への注目がますます高まっているようです。織田信長、豊臣秀吉、徳川家康など誰でも知っている英雄武将たちではなく、彼らを陰で支えた裏方の黒田官兵衛を主人公に据えるとはとてもユニークです。官兵衛ブームの到来です。

■問い合わせ先  
郷土文化交流課 ☎(62) 2600

## 軍師 黒田官兵衛とは

福岡藩の藩祖とされる

黒田官兵衛は、天文15年(1546)播磨国(はりまのくに)兵庫東姫路市に生まれました。本名は孝高(よしたか)、通称名として官兵衛の他、出家後の号である如水(じょすい)がよく知られています。ここでは官兵衛に統一して表記します。

さて、官兵衛は播磨國小寺氏の家臣でしたが、織田信長の才能に着目して主君と共に接近し、小寺氏の滅亡後は織田家臣として豊臣秀吉の配下になります。やがて官兵衛は数々の戦で軍師として



の才をいかんなく発揮し、信長亡き後には秀吉の天下取りをサポートしました。

天正15年(1587)には九州平定の功績で豊前12万石を与えられますが、やがて家督を息子長政に譲り、自らは秀吉の側近として仕えています。

天正15年(1587)には九州平定の功績で豊前12万石を与えられますが、やがて家督を息子長政に譲り、自らは秀吉の側近として仕えています。

## 官兵衛、筑前国へ

秀吉が亡くなった後、慶長5年(1600)に起きた関ヶ原の戦いでは長政が手柄を立て、勲功として家康から筑前国を

官兵衛ゆかりの地は、

たず、愛妻家としての側面も知られています。

## 黒田家と承福寺

息子の長政は宗像郡だけ官兵衛が亡くなるまで

「猫塚伝説」に基づいて

私たちの住む宗像市にも存在します。その一つ、承福寺は上八の海を望む高台にある臨濟宗の寺院です。ここに、官兵衛をはじめ黒田家が発給した文書が残されていて、手厚い保護を受けていたことが分かります。

隣の宮若市の町おこしといえば「招き猫」と「ほろろ」が表裏一体となったユニークな猫グッズを思い起こす人も多いでしょう。これは、旧宮町にあった西福寺に住みついた大ネズミを、和尚さんの可愛がっていた猫が命を賭して退治したという「猫塚伝説」に基づいて

その舞台となった西福寺は古くに移転し、現在、浄土宗の寺院として野坂にあります。ここにも官兵衛が残した文書

の他、2通の古文書が大切に保管されています。それによると、慶長5年(1600)に官兵衛が中津から筑前入りすると

き、西福寺に妹である妙円尼(みょうえんに)らと宿泊したようです。官兵衛の文書には、干し柿などの贈答に対してのお礼と共に、宿泊の折に野坂の西福寺の竹林が気に入ったらしく「竹をよく生やしておくように」との文言がありました。激動の人生を送ってきた官兵衛は、この時に宗像の風土に癒やされ、隠居領にしようと考えたのかもしれない。

(文化財職員・白木英敏)

## 大人も夢中になる図鑑



最近、話題になっている大人向けの科学図鑑。美しい写真や絵が多く使われ、科学が苦手な人でも読みやすいのが特徴です。高価な図鑑は、なかなか自分では購入しにくいもの。図書館で借りて、楽しんでみましょう。



### 市民図書館にある本の紹介

#### 「世界で一番美しい元素図鑑」

セオドア・グレイ著/創元社

ブームの発端となった図鑑。H・Cなどの記号や周期表でおなじみの元素を、インパクトのある写真で表現しました。解説も詳しく、元素の新たな一面を発見できます。

#### 「雲のカタログ」

村井昭夫著/草思社

世界気象機関で分類される100種類の雲を全て網羅し、日本の風景と共に紹介しています。見分け方や発生する条件などの説明もあります。

#### 「不思議で美しい石の図鑑」

山田英春著/創元社

宝石のような鉱物の、さまざまな姿を集めた1冊です。メノウのコレクターとして世界的に知られる著者の秘蔵コレクションを収録しています。

#### 「骨から見る生物の進化」

ジャン=パティスト・ド・パナフィュー著/河出書房新社

フランス国立自然史博物館などの収蔵標本の中から、厳選した200点の脊椎動物の骨格写真を収録。縦横30cmの写真は迫力満点。骨から生物の進化の痕跡を読み取る解説つきです。

#### 「世界で一番美しいレントゲン図鑑」

ニック・ヴィーシー著/エクスマレッジ

X線の装置を用いて撮影した日用品、植物、動物などのレントゲン写真の図鑑です。花や昆虫、ぬいぐるみ、スニーカーなどのありふれたものにも、意外な美しさがあることに気づかされる1冊です。

■問い合わせ先 市民図書館 ☎(37) 1321